

中富良野町

6326 高木麻里子

1 地名の由来

「富良野」の語源はアイヌ語のフーラヌイである。フーラヌイとは「臭くにおう泥土」を意味し、活火山である十勝岳から流れる川の水が硫黄臭く、この一帯が泥炭地帯であったことからきている。この泥炭地は農業には不向きだったが、先人の開拓の苦勞があって、素晴らしい農業地帯になった。この富良野の盆地の中ほどが本町なので、『中富良野町』と名がつけられた。

2 歴史

2.1 開基と移民

富良野地方の開拓の始まりは、明治 30 年の三重団体とされる。三重団体のフラノ原野開拓第一歩の地「憩いのにれ」の跡に「富良野平原開拓発祥の地」の碑がある。しかし最も早く入植したのは明治 28 年に富山県から単独で中富良野の西中に入った伊藤喜太郎である。中富良野町では、伊藤喜太郎入植の明治 28 年を開基の年としている。中富良野に人が住み始めたのは、本幸 1 遺跡から 8000 年前ころである。明治 28 年（1895 年）に開拓の鋤がおろされて以来、農業を基幹産業とする町として発展してきた。

2.2 産業

西部の波状丘陵地帯には、小麦、玉ねぎ、いも、人参、ビート、豆、メロン、スイカなど、中央部の平坦地帯には、稲作を主に、アスパラ、イチゴ、メロン、スイカなど、東部の十勝岳山麓、波状丘陵地帯には、小麦、トモロコシ、玉ねぎ、いも、長芋、人参、カボチャ、アスパラ、百合根、メロン、スイカなどが作付けされている。

近年は恵まれた自然環境を生かし、観光産業も発展している。富良野盆地に広がる牧歌的田園風景と十勝岳連峰の雄大な景観を有する西部一帯には、ラベンダーを中心に本格的リゾート地として整備されている。

3 中富良野町の地理、気候、自然

3.1 位置、面積

東西 17.9km、南北 13.4km、標高 185m 総面積 108.70km²で東経 142 ° 26′、北緯 43 ° 24′ に位置する。

中富良野町は北海道のほぼ中央に位置し、十勝岳の山林が東北に広がり、東西は山岳丘陵である。

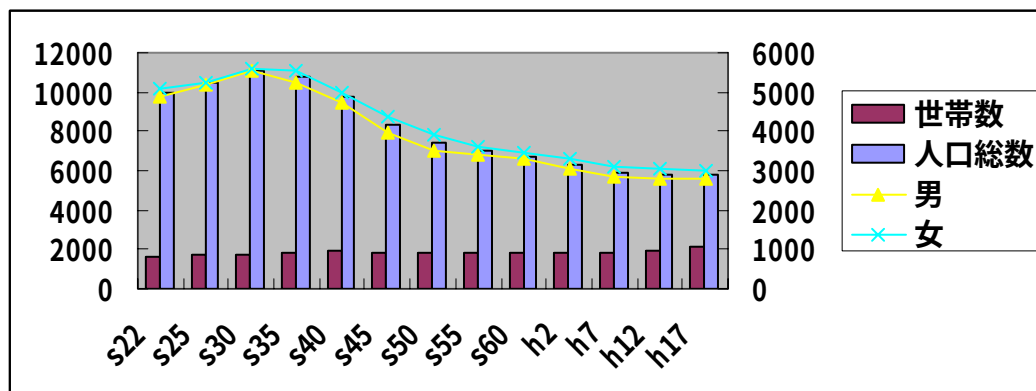
The map displays the following locations (from north to south, west to east):

- 幌延町 (Horoetsu-cho)
- 天塩町 (Ten-shi-cho)
- 中川町 (Nakakawa-cho)
- 音威子府村 (Oneshi-furumura)
- 遠別町 (Tohbet-cho)
- 美深町 (Misai-cho)
- 初山別村 (Hatsuyama-betsumura)
- 名寄市 (Nemuro-shi)
- 幌加内町 (Hogaiuchi-cho)
- 風連町 (Furumai-cho)
- 羽幌町 (Hupho-cho)
- 下川町 (Shimokawa-cho)
- 苦前町 (Kurumae-cho)
- 比布町 (Hibubu-cho)
- 小平町 (Kobira-cho)
- 剣淵町 (Kensu-cho)
- 和寒町 (Wakan-cho)
- 士別市 (Shibetsu-shi)
- 秩父別町 (Chitose-cho)
- 北竜町 (Kitaryu-cho)
- 愛別町 (Aibetsu-cho)
- 比布町 (Hibubu-cho)
- 妹背牛町 (Isegi-cho)
- 富良野市 (Furano-shi)
- 沼田町 (Numata-cho)
- 鷹栖町 (Takasaka-cho)
- 当麻町 (Toma-cho)
- 上川町 (Kamikawa-cho)
- 雨竜町 (Amururi-cho)
- 滝川市 (Takioka-shi)
- 増毛町 (Masumi-cho)
- 深川市 (Fukawa-shi)
- 旭川市 (Asahikawa-shi)
- 東川町 (Higashikawa-cho)
- 新十津川町 (Shinshitsukawa-cho)
- 当別町 (Tobetsu-cho)
- 石狩市 (Ishikari-shi)
- 赤平市 (Akai-shi)
- 美瑛市 (Biei-shi)
- 上川町 (Kamikawa-cho)
- 月形町 (Gakkai-cho)
- 浦臼町 (Ura-usui-cho)
- 砂川市 (Sachikawa-shi)
- 茅渚市 (Chomozu-shi)
- 富良野市 (Furano-shi)
- 美瑛市 (Biei-shi)
- 北村 (Kitamura)
- 三笠市 (Mitsurashi-shi)
- 富良野市 (Furano-shi)
- 南富良野町 (Minamifurano-cho)
- 歌志内市 (Kashino-shi)
- 新十津川村 (Shinshitsukawa-mura)
- 岩見沢市 (Iwamizawa-shi)
- 江別市 (Ebetsu-shi)
- 栗沢町 (Kuriyama-cho)
- 夕張市 (Yokohka-shi)
- 富良野市 (Furano-shi)
- 南富良野町 (Minamifurano-cho)
- 古冠村 (Furukorona-mura)
- 上砂川町 (Umesato-cho)
- 札幌市 (Sapporo-shi)
- 長沼町 (Naganuma-cho)
- 恵庭市 (Erimo-shi)
- 千歳市 (Chitose-shi)
- 由仁町 (Yurei-cho)
- 栗山町 (Kuriyama-cho)
- 奈井江町 (Nai-cho)
- 南幌町 (Minamihoro-cho)
- 北広島市 (Kita-hiroshima-shi)

気候は内陸性に属し、冬の厳寒と夏の残暑という極端な二面を持ち合わせており、年間平均気温は 6.1 度で全道平均より低いが夏季は 30 度、冬季は -25 度、積雪は平野地で 1 ミリ程度、4 月中旬には雪が消え、桜前線は 5 月 10 日ごろと農業気象としては最適で気候・風土とも恵まれた土地である。

4 人口・世帯数推移

グラフ 1；人口・世帯推移数のグラフ



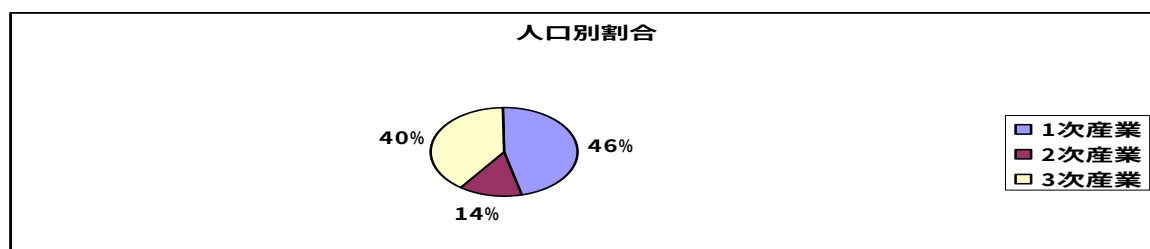
出展；道庁 HP

中富良野町は平成 17 年では人口総数 5782 人、男 2785 人、女 2997 人、世帯数 2100 世帯となっている。人口は昭和 30 年をピークに年々減少傾向にあるが、世帯数は年々増加傾向にある。男女比を比べてみると常に女性の人口のほうが男性の人口を上回っていることがわかる。上川支庁の総人口 535456 人において中富良野町の人口はおよそ 1.08%をしめている。

5 産業

5.1 産業別人口

グラフ 2；産業別人口のグラフ



出展；旭川統計・情報センター

このグラフから、中富良野町は一次産業と三次産業が中心となっていることがわかる。富良野地域の基幹産業は農業である。しかし農業を取り巻く環境の変化、担い手の高齢化などにより第一次産業就業者数は減少が著しくなっている。観光関連を中心として第三次産業就業者の割合が増加している。中富良野町はクリーン農業宣言をし、減農薬、有機栽培、生産者と消費者の間のルートの改善などに積極的に農業政策に手厚い町となっている。

6 農業

6.1 主要農作物の内容

一戸当たりの経営面積は約 8ha と地区内で最も少なく、稲作を主体とする地域であった。しかし、転作の強化で野菜を組み合わせた複合経営が推進され、野菜の産出額は全体の 58% を占めるに至っている。中富良野町は、地区内で米の生産量の最も多い地域であり、良質・良食味米の安定生産と差別化商品としての減農薬栽培米生産にも取り組んでいる。

表 1；主要農作物の作付け面積及び収穫量(平成 15 年)

単位；ha、t

項 目	水 稻	麦 類	馬鈴しょ	大 豆	小 豆	てん菜	デントコ ーン	牧 草
耕作面積	1510	601	124	166	73	193	44	224
収穫量	6580	2730	4340	440	190	13500	2460	9190
項 目	だいこん	にんじん	キャベツ	たまねぎ	かぼちゃ	メロン	すいか	アスパラ
耕作面積		267		462	203	90	8	41
収穫量		7850		25600	2560	2340	336	104

(北海道農林水産統計情報 H14 年～15 年)

出展；中富良野町の農業概要

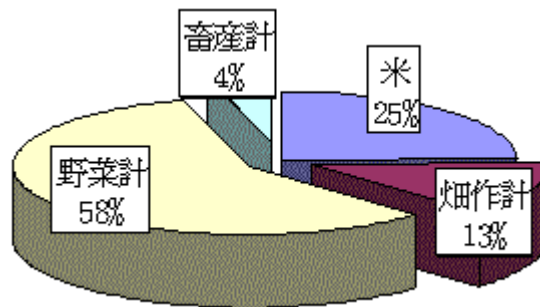
表 2；農業産出額（平成 14 年）

単位：100 万円

(耕 種)		(畜 産)	
水 稻	1730	肉用牛	100
麦 類	330	乳用牛	200
豆 類	170	豚	180
馬鈴しょ	170	鶏	0
野菜類	4040	その他	0
果 実	10		
花 き	40		
工芸作物	210		
その他	110		
耕種小計	6810	畜産小計	310
合 計	7110		

出展；中富良野町の農業概要

グラフ 3；農業産出額グラフ(平成 14 年)



出展；中富良野町の農業概要

6.2 農業産出額の推移

米が年々減少傾向にあるが、野菜は多少の増減はあるもののほぼ一定といえる。おそらく無添加物、低農薬などを用いるクリーン農業宣言などで注目されているので年々増加していくことが予想される。

表 3；農業産出額の推移

中富良野における年次別農業産出額の推移							
産出額\区分		耕種			畜産		
		米	麦類	野菜	肉用牛	乳用牛	豚
平成 10 年	8100	2318	263	4474	54	201	28
H11	7727	2226	211	4288	49	195	17
H12	7682	2152	286	4186	53	204	8
H13	7195	1999	260	3959	54	199	5
H14	7114	1729	332	4044	102	198	3
H15	7434	1572	451	4195	94	194	3
H16	7173	1359	363	4258	99	177	6
16 年度生産額割合 (%)		18.9	5.1	59.4	1.4	2.5	0.1

単位;100 万円

出展；中富良野町農業要覧 04

6.3 特産品

中富良野町ではクリーン農業宣言をしており、低農薬や無添加物など体に害をなさないような特産物を作っている。

例えば有機低農薬栽培をしたチコリーコーヒー・チコリー玄米茶はカフェインが無く、オリゴ糖も充分含み、お子様・病人等にも安心して飲むことができる健康飲料である。

写真 1；チコリーコーヒー・チコリー茶



出展：中富良野町 HP

7 観光

表 4；観光入れ込み客数

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上期計	10 月	11 月
中 富 良 野 町	入込総数	9.3	51.5	150.5	651.9	210.0	71.4	1,144.6	32.2	9.0
	内道外客	3.7	20.6	60.2	260.8	84.0	28.6	457.9	12.9	3.6
	内道内客	5.6	30.9	90.3	391.1	126.0	42.8	686.7	19.3	5.4
	内日帰客	7.9	48.6	144.8	641.3	201.4	65.6	1,109.6	29.3	6.9
	内宿泊客	1.4	2.9	5.7	10.6	8.6	5.8	35.0	2.9	2.1
	宿泊客延数	1.4	3.0	5.8	11.2	9.1	6.0	36.5	3.5	2.4
		12 月	1 月	2 月	3 月	下期計	年間合計	15 年度	対前年比	
		5.7	2.0	1.0	2.5	52.4	1,197.0	1,193.8	100.3	
		2.3	0.8	0.4	1.0	21.0	478.9	477.4	100.3	
		3.4	1.2	0.6	1.5	31.4	718.1	716.4	100.2	
		4.6	1.6	0.7	1.1	44.2	1,153.8	1,148.9	100.4	
		1.1	0.4	0.3	1.4	8.2	43.2	44.9	96.2	
		2.4	2.6	0.3	1.7	12.9	49.4	47.0	105.1	

単位；千人・%

出展；北海道観光入込客数調査報告書

7.1 観光入れ込み客数

上期の観光客人数が下期に比べて多いことがわかる。これは中富良野の観光名所であるラベンダー畑は大体 6 月から 8 月にかけて開花時期なので、その時期にあわせて観光客が訪れてくるため、上期の方が人数が多いと思われる。

7.2 名所

中富良野町では主にラベンダーを生かした名所が数多くあり、これらを利用して観光客を呼び寄せたりするなどの町の活性化を図っている。

写真 2；町営ラベンダー園



出展；中富良野町 HP

まちのシンボル・北星山の中腹に色づくラベンダー。

眼下に富良野盆地ののどかな田園風景が、東には十勝岳連峰のパノラマがひろがっている。観光リフトで北星山の頂上をめざすと足元には、ラベンダー、ポピー、サルビアのお花畑が。頂上からの展望は 100 万ドルの眺望。

写真 3；ファーム富田



出展；中富良野町 HP

丘一面に広がるラベンダーと、ポピーやカスミソウなどの色とりどりの花々で有名な美しい農園。ラベンダー栽培は、1958 年、現会長である富田忠雄さんによって始められた。高貴な紫色の花と、心いやす香りに魅せられ、年間約 100 万人もの人が訪れている。戦後まもなくより、富良野地方で、香料用に栽培されたラベンダーだが、昭和 40 年代には合成香料に押され、ほとんどの農家がラベンダーから撤退していく中で、富田さんがラベンダー畑を守り、今のラベンダー人気につなげた。近年はラベンダーの他に鮮やかな一年草が多く植えられるようになり、年中いろいろな花を楽しむ。

参考 HP

中富良野町 HP <http://www.furano.ne.jp/nakafurano/>

上川支庁 HP <http://www.n43.net/city/kamikawa.htm>